

靴の歴史散歩 ⑪①

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

浅草関連の史料から、小林権七なる人物が、浮かび上がってこないかと調べていたら、さすが小林権七、浅草紳士録ともいべき『浅草人物史』（大正2年、實業新聞社）に、親子二代に亘って特記されていたからありがたい。

早速、その人物史の307頁からご紹介したい。「質商 小林権七君（筆者註・二代目）質屋は社會是非無かる可らざる金融機関の一つなり。殊に都會に於ては最も多く利用されつゝあり、而して市内数ある中に確實の取扱を以て信用ある浅草北部同業者の重鎮・石塚屋こと小林権七君は如何なる人であるか。君は先代権七氏の二男にして安政四年七月十四日を以て生る。（中略）……先代権七氏は夙に公共慈善の念に厚く、殊に教育上に関しては頗る努力しつゝあり。曾て待乳山小學校（筆者註・待乳山聖天中腹）が不便の地にあるを憂い、現所たる地所百二坪を寄附して移転せしめたり。（筆者註・明治16年10月6日 亀岡町1丁目1番地・現・都立台東商業高等学校山谷堀側一帯。「靴の歴史散歩」⑩④地図参照）今日でこそ同所附近は繁華の街となりしも、その頃は一面草茫茫たる田圃で、富士山の觀望に便なるより兒童教育上、適當の場所なりと信じ寄附したるものなり。當時東京府よりその功績に對して銀盃三重を賜わる。（中略）……君もまた先代に優るほどの社會公共の觀念に富み、從來公私の寄附行爲は

率先して盡瘁しつゝあり。また町内の發展等に関しても努力する所少からず、昨年浅草小學校學校園敷地を寄附したることは、今尚區民の記憶に新たなる美學なり。蓋し君の如きは世に稀れなる公共の典型といふべきなり、希くば邦家のためにいよいよ健在ならん事を祈る。（浅草田町一丁目二十九番地）」と結んでいる。

或る学校関係の記念誌に、待乳山小學校の地方今戸への移転（現・東浅草小學校の地）について、「旧亀岡町の位置よろしからずによって、校勢常に萎靡不振をまぬがれず、以て当時の人々大いに議したとある。」と書いているが、山谷堀にあった待乳山小學校が、個人の寄附によって開校された学校敷地であったことを、ご存知なかったのだろうか。この辺のところは小林権七に代わって、ひと言書き添えておきたい。

写真は、弾直樹邸跡地に建つ、震災復興山谷堀小學校の全景。（昭和3年1月25日）

